マフラーと私

桃瀬ゆえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
マフラーと私

【Ｎコード】
Ｎ５２８９Ｈ

【作者名】
桃瀬ゆえ

【あらすじ】
『歪で硬い温かさより、優しく穏やかな温かさを人間好むものだ。』そんな冒頭で始まる女子生徒と男子生徒の、何気ない冬の一コマ。登場人物に名前はなく、身体特徴もあえて描かれていません。（２００４年『Ｗｅｂ小説きらら』投稿作品）

歪で硬い温かさより、優しく穏やかな温かさを人間好むものだ。

（…駄目だ、こんなマフラー渡せるわけがない。）

そう溜息をついて、私は今しがた仕上がったそれを袋へと押し込んだ。硬かったり柔らかかったり、実に気まぐれでふらふらした、まるで私みたいなマフラーを。

教室の中にはもうちらほらとしか人はいなくて、喧騒は分散され窓の向こうから僅かばかり聞こえるのみ。チャイムと共に散った喧騒を視線だけで追いかけて、私はまた溜息をついた。溜息すら今この場所では響く気がする。

（ああ、いつの間にか皆帰っちゃった。）

窓に映る室内があまりに伽藍堂としていたので、私も帰ろうかと振り返る。振り返って、そこに彼が立っていた。「ほら、帰るよ。」何を思っているのかはあまり解らない表情だったけれど、一番近いとしたら呆れだったのかもしれない。自分達以外いなくなってしまった教室で、なかなか席を立とうとしなかった私に彼は手を差し出した。

うん、とうなづいて私はその手を取ろうとしたのだけれど、彼のそれはあまりにも自然な動作でもって私の手を擦り抜ける。擦り抜けて、ごくごく当たり前の様にそれは歪なマフラーを掴み上げるものだから、

「あ、」
「…君ってさ、ホント不器用だよね。」
彼が零した言葉に、そんなことは言われなくとも分かっているのだけれど言葉を返さずにはいられなかった。「悪かったわね、下手くそで。」
むくれた私をみて、そこでようやく彼が笑う。
「そういう意味じゃないのに、」
苦笑いを西日に照らされながら、それもまた当たり前の様に、彼はマフラーを首に巻き付けた。

（後書き）

名無し・人物特徴を描かないのが割りと好きです。
読み手様の中では、一体どんな人物が映っているのでしょうか？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5289h/

マフラーと私

2010年10月27日08時18分発行